



学習支援ボランティア (てらこや無償塾)

《学習支援ボランティア取材》

皆さんは“学習支援ボランティア”という活動をご存じですか。

“学習支援ボランティア”は、家庭環境をはじめ、様々な困り感を抱えた主に小中高生の子ども達を対象に、無料で学習支援を行う活動のことです。

今回は、岐阜市の円徳寺で小学生から高校生までの学習支援や食糧支援等を行っている“てらこや無償塾”で、長年学習支援ボランティアをされている山田良一さん（79）にお話を聞きました。〔令和7年2月15日取材〕

山田先生はどんなきっかけで学習支援ボランティアを知り、やってみようと思ったのですか。

「私は60歳まで英語の高校教員をしていて、その経歴を生かして参加しました。」と言ってしまえばそれで終わりなのですが、実のところ、参加に至るまでの話をすると長くなります。

私は1945年8月6日生まれなのですが、この日付を聞いて何を思い浮かべますか？

「広島市に原子爆弾が投下された日」…ですね。

そうです。私の生まれは大垣市なのですが、自分の誕生日が広島の前爆投下日と同じことから、「自分は広島についてよく知り、何かをしなければならない。」という使命感に近い思いにずっと駆られてきました。関連する本や資料を多く読みましたし、若い頃だけでなく、家庭をもつてからも家族を連れ広島の地に足を運びました。

『被爆ピアノ』（※1）を知っていますか？矢川光則さんという調律師さんが、被爆ピアノを調律して全国巡業コンサートを行い、原爆の記憶を伝え、平和の大切さを訴えていらっしゃるんだけど…。

あれは2012年だったかな。その被爆ピアノコンサートが大垣市で開催されたことがあって、勿論、私も聴きに行きました。

そしてその時に、岐阜市から聴きにいらっしゃっていた方と知り合い、その方から「若岡さんという方が福島から避難してきた子ども達のために学習支援教室を開いたそうだよ。」という話をお聞きしたんです。

福島原発事故は自然災害によるものだけど、“被爆被害者”という点では同じだと感じ、広島の方々だけでなく、福島の子ども達が困っているのであれば、自分の出来ることで助けたいという思いを抱いていたんです。

それで被爆ピアノコンサートの後、伝手を辿って若岡さんを探しましてね、『てらこや無償塾』に参加し、子どもの学習支援と福島原発事故被災者に関する集団訴訟の支援を始めたのは、翌年2013年のことでした。

（※1）被爆ピアノとは、1945年8月の日本への原子爆弾投下によって被爆したピアノのことで、広島市に9台、長崎市に1台、仙台市に1台（広島で被爆）現存しています。

地元の大垣市内の学習支援教室ではなく、岐阜市で活動をされている理由は、『てらこや無償塾』の設立理由に共感をされたからなんですね。

私は運営には携わっていないので、詳細については若岡さんに聞いていただけたらと思いますが、民間ボランティア団体ならではの柔軟な考えで運営されています。

学習支援だけではなく、子ども達の思い出作りを企画したり、食糧支援をしたり、複合的に支援を行っていることが本当にすごい。「子ども達の命を守る」という根幹が素晴らしいんです。

以前は勉強後にみんなで昼食を作って、みんなで食卓を囲んでいたのですが、コロナ禍は大勢で食事をしてはいけない風潮になり、子ども食堂ができなくなって…。

でも、代わりにお弁当を持ち帰っていただく形にして続けたんです。

そうやって臨機応変に対応できたのも、民間ボランティア団体ならではの発想だなと思うんですね。

今年は6年ぶりに観光バスで卒業旅行を計画しているそうですよ。

長く活動を続けていらっしゃるのにはやりがいがあるからだと思いますが、どのような時にやりがいを感じますか。また、強く思い出に残っているできごとはありますか。

日々の中では、子ども達が「分かった!!」という顔をみせてくれる時や1日の最後に「ありがとうございました!!」と元氣な挨拶を聞いた時にやりがいを感じますね。

もっと長い期間の中では、子ども達の成長を見られる事ですかね。

お金を支払って通う塾だと、卒業後に何度も顔を出してくれるなんてことはあまりないでしょう？でもここは、単なる勉強を教えてもらう場ではなく、子ども達にとって人と人のつながりを感じられる居場所なんですよ。だから、卒業後も何度も顔を見せに訪ねてきてくれるんです。

それだけじゃなくてね…。

ほら、あちらで中学3年生の子を教えている女子大生がいるでしょう？

あの子はこの卒業生で、現在大学1年生。小学生だった子が大学生になって、ここへ戻ってきて、今度は支える側になってくれた。そんな姿を見ると、とても感慨深い気持ちになりますね。

何かすごい出来事があるわけではないけれど、そういう“巡り”みたいなものがあるのがいい。

子ども達とのつながりを感じられる時、やっていて良かったと思うんです。

活動をしている中で、時には難しいなとか、大変だなと感じる時もありますか。

子ども達なりに「自信を付けたい」、「成長をしたい」と思ってここに通ってくれています。

しかし、中には勉強嫌いな子や「今日は勉強する気がしない」という子もいるわけで、そんな時にいかにやる気を出させるかを考えて声をかけるんですが、相手は子どもですから…。

すごく大変なことではないけれど、子どもの気持ちをのせるのが難しい時は少しだけもどかしい気持ちになりますね。ところで、あなたは勉強が好きでしたか？

えっ!!逆質問ですか(笑) 運動が苦手で、机に向かう方が好きでした。ただ英語を担当していらっしゃった山田先生には申し上げにくいんですが、理系科目が得意でしたが、実は英語がどうにも苦手で…。大人になった今も苦手感が拭えないでいます。

何で苦手意識をもってしまったのかな？

まず苦手意識をもたせずに興味を向けさせることが大事で、それには工夫が必要だね。

例えば英語なら沢山の英語の曲を聞くといい。好きな曲やアーティストを見つけて、気に入った曲の歌詞を覚えるところから始めるんです。

最近の英語の教科書を見たことはありますか？

有名なポピュラーソングが教科書の始めの方に紹介されているんですよ。

〔広げて見せてくださった中学 1 年生の教科書には、カーペンターズの「SING」やビートルズの「Hello, Goodbye」が掲載されていた。〕

これ、選曲がすごくいいと思いませんか？

歌詞には簡単な単語しか使われていなくて、これから英語の勉強を始めようとする子ども達にちょうど良いでしょ。

歌えば楽しくなるし、興味が湧く。

私が教える時にはポピュラーソングではなく、敢えてアフリカ支援の曲等を選曲して、その背景も伝えるようにしています。

外国の文化等にのめり込んでもっと知ろうと思うと、語学が必要になりますからね。

苦手意識を感じてしまうよりも前に、興味・関心をもたせることが肝要ということですね。

それと、海外旅行をしたいと思う気持ちもまた語学を学びたいと思うきっかけになります。

なので、私はよく子ども達に「どこの国に行ってみたい？」なんて聞いたり、私の体験した海外旅行話をしたりしています。

そうそう、以前私が担当していた男子生徒にね、「英語ができると、ツアーじゃなくて、自分で旅行を手配できるからどこへだって行けるんだよ。教員時代に仲良くなった^{エーエルティー} A L T (※2)を訪ねて、色んな国を旅行したけど、中でもアイルランド、イギリス、ヨーロッパを長期間旅したのは楽しかったなあ。」って話したら、その子はアイルランドの国旗を調べて、私の名札に描いてくれたんですよ。

一番最近では、去年ベトナムまで行ってきました。

ね？英語を学ぶのって、「楽しい」ですよ。

(※2) ^{エーエルティー} A L T は、Assistant Language Teacher の略で、「外国語指導助手」、「英語指導補助」のことです。

生徒数名に対して先生1名が付くグループ指導を想像していましたが、こちらの教室では生徒1名に先生1名が付いていますね。

山田先生は英語教師をされていたので、英語を勉強したいという子がいるとマンツーマン指導をするのでしょうか。

いいえ。教科担当制ではなく、生徒1人を完全に受け持ち、どの教科も見ています。

マンツーマン指導ではあるのですが、「教える」わけではなくて…。

基本的には、私達は「こうやってやるんだよ。」と初めから口を出すのではなく、教科書や参考書で自学自習をする子どもの姿を見ていて、つまづいた時だけ教えます。

この“見守り”こそが大切なんです。

また教師だったことを生かして専門の店でしか買えない英語の教科書や参考書を寄贈して、生徒達に自由に使ってもらっています。

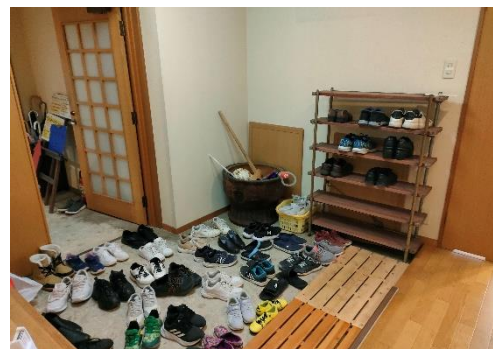
こちらの教室にはシニアや大学生のボランティアが大勢いらっやいますね。

生徒は何名通っているのでしょうか。

福島から避難をしてきた子ども達のために開設した『てらこや無償塾』ですが、現在では経済的に困っている家庭や外国籍の家庭の子ども達の受け入れもしています。

例年 30～40 名の小学生から中学生の子ども達が通っていて、大学進学を目指す高校生の子も数名いるんですよ。

『てらこや無償塾』は教員退職者が立ち上げた教室ということもあって、今でも教員を定年退職したシニアのボランティアが大勢います。



上写真 『てらこや無償塾』に通う子ども達の靴がたくさん並んでいる

若い学生は、岐阜県子ども・女性局子ども家庭課から紹介(※3)を受けて来てくれている大学生です。聞くとところによると、一定期間ボランティアをすると大学で単位認定されるらしい。普通であれば単位認定に必要な期間が過ぎたらもうここに来る必要はないだろうに、ボランティアをしている間に子ども達との人間関係ができるからか、期間が過ぎた後も続けてくれる子もいるんですよ。

そのおかげもあって、児童生徒数以上にボランティアが在籍している状況を維持できているので、マンツーマン指導が可能なんです。ありがたいですね。

私はね、子ども達にとって周りに色んな大人がいるのって、とても良いことだと思うんです。

勉強に身が入らない子に「ここに来るだけえらいよ。よく来たね。」なんて叱らずに褒めるボランティアもいれば、私のように口うるさく言う年を取ったボランティアもいたり、身近に感じられる若

い大学生ボランティアもいたりね。

私自身もこういう環境を気に入っています。

(※3) 岐阜県子ども・女性局子ども家庭課は『学習支援ボランティア登録制度』を担当しており、ボランティア希望者と人手が足りない学習支援教室とのマッチングを行っています。

何かを始めたいけど、二の足を踏んでいる方に向けてメッセージをいただけますか？

無関心より興味・関心を持つことが大事で、そこからが始まりです。

何かを始めることについて悩んでいる人には、「関心があることについてもう少し調べてみて。」と伝えたいです。

興味のある団体を見学してみて、実際にどんな活動をしているのか、どんな人達が集まっているのかを知ることで、自分に合うかを判断していただくと良いんじゃないかと思います。

そして『ボランティア』をすることを悩んでいる人には、「気楽にやってみる事がよいチャンスにつながりますよ。」と伝えたいですね。

日本人は長年『ボランティア』に対して、特別なことができる人や崇高な思いがある人がやっていると思えがちでしたが、そんな風に思う事はないんですよ。

エーエルティー
A L T をしているアメリカ人に聞くと、そもそも海外では『ボランティア』の概念が日本と全然違って、もっとハードルが低いんです。「自分にやれることをやればいい」し、「やめるのも続けるのも自分次第」で良いんだそうです。「たった 1 日」だっていい。

日本でも阪神大震災以降、『ボランティア』への捉え方が変わり、若い学生の間ですそ野が広がってきたように感じています。

気楽に『ボランティア』を始められる環境づくりができてきているので、やってみても良いんじゃないでしょうか。

《学習支援教室の運営等についての取材》

てらこや無償塾を開いた経緯と、何故学習支援教室や子ども食堂のような子どもの居場所が全国各地で必要とされているのかについて、てらこや無償塾の代表者で運営を担当されている若岡ます美さんに教えていただきました。

てらこや無償塾を設立したきっかけを教えてください。

私は、2011年の東日本大震災の当初は被災地の岩手県や宮城県で支援をしていました。2012年に東日本大震災で福島県から岐阜市に避難をしてきた方々と出会い、子ども達が言葉(方言)の違いや被爆に対する偏見から学校で馴染めておらず、笑顔がなくなってしまうという状況を見ました。

何とかして岐阜の子ども達と一緒に過ごせる場を提供したいと思い、元々特別支援学校の教師だったこともあり、『退職女性教職員の会』の方々に声をかけてボランティアを募って、福島の子と岐阜の子が一緒に勉強をできる場である“てらこや無償塾”を開いたんです。

開設当初は10人程の子ども達を受け入れていました。

そして福島から避難をしてきた親御さんとお話をする中で、子ども達だけではなく、親御さん達もまた仕事などのあてもないまま突然の避難を余儀なくされて生活に困っていることを知りました。

そこで子ども達だけではなく、世帯全体を支援する必要性を感じて、当時は公的な支援がない中でしたが、『学習支援教室』と同時に『子ども食堂』や『食糧支援』もしようと決意しました。健康って何より大切じゃないですか。なので、身体に良い物を食べさせてあげたくて、当時から「提供する食材には、岐阜産・自然農法で育てられた無農薬のお米や野菜を使う」という強いこだわりをもっているんですよ。

開設当時から6年前までは、毎週土曜日午前10時から12時までの2時間勉強し、お昼には子ども達と共に調理をして、皆で昼食を食べ、午後3時頃までは勉強をしたい子は残っているよという感じで活動をしてきました。

山田先生から、今では生活に困窮している家庭の子ども達や外国籍の親をもつ子ども達の受け入れもしているとお聞きしました。現在の活動についても教えてください。

平成27年度(2015年)に生活困窮者自立支援法が施行されてからは、岐阜市や岐阜県から活動の支援をしていただけるようになりました。

そして、今では岐阜市から依頼を受けた様々な困難をかかえるお子さん達も受け入れています。近年、学習支援教室や子ども食堂の必要性についての世論が高まったことで、国や民間団体の助成金を、また私達の活動を知り共感をいただいた支援者や企業からお米や食糧等の提供をいただけるようにもなりました。

支援をしてくださっている株式会社龍の瞳からは毎月「龍の瞳（※4）」というお米を御寄附いただいています。

対象者が広がった今でも困窮世帯ごと支援をするという方針は変わっておらず、子ども達だけでなく親御さん達の悩みもお聞きしています。

てらこや無償塾では、貧困の連鎖を断ち切るために高校や大学への進学への支援に力を入れていて、今まさに受験を目前に控えた中学三年生の子ども達は一生懸命に勉強に勤しんでいます。

今年、国立大学を目指している高校三年生がいるのですが、その子には専門教科を教えるボランティアが付いて指導しています。「受験料や移動にかかる費用や宿泊代、卒業までの費用を補助するので、あなたは何も心配しないで頑張るなさい。」と皆で応援しています。

子どもがお金を心配して、学びたい気持ちや進学を諦めるなんてあってはならないので、進学にかかる費用だけではなく、子ども達がここに通うためのバス代についても支援をしているんですよ。

受験が終わったら、希望者を連れて卒業旅行をしようと企画中なんです。

卒業旅行は実に 6 年ぶり、いつもバスを貸し切って行くのですが、勿論、旅行に係る費用はてらこや無償塾で負担しています。

過去の卒業旅行で東山動物園や名古屋水族館に連れていった時に、「本物の動物を見るのは初めて!!」と喜び子が多くて、貧困によって体験の差が生じることを改めて感じたんです。

コロナ禍以降は子ども達が勉強をしている間にボランティアがお弁当を作り、そのお弁当と一緒にお米や食糧品、お菓子を持ち帰ってもらっており、午前中だけの活動になりましたが、子ども達には様々な体験をして欲しいので、今後もいろいろな活動を取り入れていきたいと考えているところです。

（※4）“龍の瞳”は岐阜県飛騨のブランド米で、自然農法にこだわった栽培で減農薬、農薬不使用の有機 JAS 米として有名です。

子どもの居場所が必要とされている理由を教えてください。

今、この日本で子どもの貧困の状況をご存じですか？

子どもの相対的貧困率は11.5%。実に 9 人に 1 人の子ども達が生活困窮により、様々な悩みを抱えています。

貧困が子ども達にどのような影響を及ぼすのか…。

食事や物質面が足りないだけではなく、勉強をする環境、様々な経験、人とのつながりが剥奪されてしまうんです。

生活が困窮している事を恥ずかしく思い、学校で何でも打ち明けられる友人を作ることが怖くてできず、学校には居場所がないと感じる子もいるんですよ。

中にはヤングケアラー（※5）もいるのですが、子どもは親が大好きだから、病気などで動けない親の面倒をみる事を当たり前ことに思ってしまう。周囲に SOS を出すようなことではないという認識でいるので、一人で抱え込んでしまう恐れがあります。

生きづらさを抱えている子ども達の中で、家出をしてその理由を話せる子はまだ良く、オーバードーズ（※6）やリストカット（※7）をしてしまう子もいます。

このような状況で勉強できると思いますか？

学力低下は幼い頃からの学習環境が整っていないことによるところも多く、小学生から受け入れる必要があります。

そして、子ども達が抱える困難には、保護者の病気等による生活困窮や、親からの虐待等の家庭内の問題といった様々な要因が複合的に重なり合って、いじめ、不登校、ひきこもり、非行といった様々な形態で表われるんです。

特に経済的な困難を抱える子どもや家庭に対する支援を実施していくに当たっては、『こども施策』と『生活困窮者自立支援制度』を連携させながら実施していくことが重要です。

子ども達は寄り添い、話に耳を傾けてくれる大人を必要としているということを、多くの方々に知っていただけたらと思います。

（※5）ヤングケアラーとは、家族の介護、その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子どもや若者のことです。勉強に励む時間、部活に打ち込む時間、将来に思いを巡らせる時間、友人との他愛ない時間等、「こどもとしての時間」と引き換えに、家事や家族の世話をしていることがあります。

（※6）オーバードーズとは、医薬品を過剰摂取することで、幻覚や興奮状態、強い幸福感を得られる一方、中毒症状や離脱症状を引き起こし、時には臓器不全になったり、亡くなったりしてしまうケースもあります。

若年層がオーバードーズをする背景には、いじめや虐待、親との関係の悪化、学校での孤立など、家庭や学校等で感じている「孤独感」や「強いストレス」があり、気分を変えるための手段として、手に入りやすい市販薬を過剰摂取してしまうのです。

（※7）リストカットとは、通称『リスカ』と言い、自傷行為のひとつです。

「怒り」、「空虚感」、「寂しさ」、「劣等感」などの感情が抑えられず、カミソリ等で自分の手首を傷つけてしまうのです。

参考文献

・こどもまんなか こども家庭庁公式ホームページ：

<https://kodomoshien.cfa.go.jp/young-carer/about/>

・令和6年度 生涯学習審議会 「てらこや無償塾」活動発表資料



写真 受付で、体温測定や手指消毒を行うボランティアさん



写真 企業や支援者から届いた食糧やお菓子、衣服等の様々な提供品を整理するボランティアさん



写真 各家庭の人数分のお弁当を手作りし、冷めないよう保温袋に入れる気遣いをされているボランティアさん達



写真 「今日は米180kgと高級卵の支援をいただけたんです」と我が事のように嬉しそうに話し、子ども達に食糧支援品として渡すため、お米を小分け作業するボランティアさん達



写真 卒業旅行を子ども達はとても楽しみにしている。



写真 「ありがとうございました!!」と元気よく帰っていく子ども達

【学習支援のボランティア募集・マッチング事業について】 子ども家庭課

岐阜県では、さまざまな困り感を抱えた小中高生の子どもたちが、いろいろな人と出会い、関わり、語らい、安心できるひと時を共に過ごす「学習支援教室」に、子どもたちを見守りながら、一緒に学習したり、子どもたち一人ではできなかったことも力を合わせて取り組む「学習支援ボランティア」を募集し、学習支援の場へ繋ぐ「学習支援ボランティア募集・マッチング事業」を実施しています！

子どもと関わるのが好きな方、こどもの教育やふれあい、福祉に関心のある大学生、教員 OB、地域の方々など、幅広い年代のみなさまが「学習支援ボランティア」として、県内の「学習支援教室」で活動活やくされています。

岐阜県の学習支援ボランティアに、ご興味、ご関心を持ってくださった方は、子ども家庭課「岐阜県学習支援ボランティア」のホームページで募集の案内を行っておりますので、ぜひご覧ください。

◎「岐阜県学習支援ボランティア」のホームページ

岐阜県学習支援ボランティア	検索
---------------	----

又は<<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/17382.html>>

○募集チラシ

<<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/427925.pdf>>

《申し込み方法》

学習支援ボランティア登録規約に同意いただき、オンラインフォーム又は所定の登録申込用紙によりお申込みください！

◇登録規約

<<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/126019.pdf>>

◇オンライン申込みされる方

・入力フォーム (URL:ホームページアドレス)

<<https://logoform.jp/form/T8mB/826349>>

・入力フォーム (QRコード)



◇郵送、FAX、メールにて申込みされる方

・登録申込書 [PDF ファイル]

<<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/430559.pdf>>

・登録申込書 [Word ファイル]

<<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/430561.docx>>